

令和六年十二月吉日初版作成

新しい神聖復活の習慣

高嶋善三郎

目次

- 新しい神聖復活の習慣とは・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 新しい習慣は人間神の子観から・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- 新しい神聖復活の習慣を通じて得るもの・・・・・・・・・・ 5
- 神聖復活の印のたらなる偉力を発揮する呼吸法・・ 6
- 呼吸法における唱名・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

お願い

より分かりやすくするため、ご感想があれば、お聞かせください。

例えば、この点について分からなかったか、どの点が心に響いたとか、新しい疑問があるなど、何でも結構ですので、お聞かせください。

次の連絡先にお願ひ致します。

(スマホ) 090343466610

(パソコン) zensan@peach.ocn.ne.jp

新しい神聖復活の習慣とは

前回の資料において、「宇宙神のひびきに同調するには、「日々自分の想念の習慣を新しい神聖復活の習慣に変えることが大事である」と五井先生は言われていますが、それについてももう少し詳しく説明をしてくださいという質問がありましたので、それを整理したいと思います。

結論を端的に言えば、新しい神聖復活の習慣とは、人間神の子観に基づき、想念行為の習慣です。それに対して古い習慣とは、肉体人間観に基づき、想念行為の習慣です。

肉体人間観の習慣は、長年疑問も持たず、当たり前な生き方として受け入れてきたものです。今自分の日ごろの想念行為を振り返ってみるとそれがわかってきます。自分の周りの動きに反応する。人の評価を気にする。常に他人と比較して自分を劣等感や優越感をもつ。世の中の戦争や経済不安に対して恐怖心や怒り悲しみを感じる。自分の失敗を他人のせいにしてしまう。自分の運命を恨むなど。そしてこれらはすべて人間だからとそれらを手放すことをあきらめてしまう習慣です。

五井先生は、これらの心を次のように解説されています。

「それは、(目の前に現れた現象を、)眼で見、耳で聞き、想いで分別し、認識しようとする心、善悪を判断しようとする心等、自然(じねん)の心に相反する業因縁の心」の習慣だ。

一方新しい神聖復活の習慣は、目の前に現れた現象に扱われるのではなく、自分の内なる本心(神聖)に自分の想念行為を合わせるものです。

具体的には、これまで五井先生や昌美先生によって、『人間と真実の生き方』や『人類即神也』の宣言文で示されています。

まず個人的には、どのように実行するかについて、いかなる苦悩(い)えど、それらは私たちの神聖を現わすために、守護の神霊と宇宙神の働きにより、大難を小難にして消していただいているのだと受け止めて、愛と真と救いの言行をなし続け、ひたすら平和の祈りを実践し、神霊の中に入りつつける習慣を身につけていくことが真の救いになると示されています。

また私たちを取り巻く、国内情勢や世界情勢は不穏な状態が続いていますが、それをどのようにとらえて対応していくかについて、『人類即神也』の宣言文に、示されており、要約は次の通りです。

地球上に生ずるいかなる天変地変、環境汚染、飢餓、病気・・・また世界中で繰り広げられる戦争、民族紛争、宗教対立・・・等 またいかなる地球上の出来事、状況、ニュース、情報に対しても、また人類の様々な想念、行為に対しても、さらに小智才覚により神域を汚してしまっている発明発見に対しても、これらもすべて「人類即神也」を現わすためのプロセスとして認識し、いかなる批判、非難、評価を下さず、それらに対して何ら一切関知せず、私たちはただひたすら人類に対して、神の無限なる愛と赦しと慈しみを与えつづけ、人類すべてが真理に目覚めるその時に至るまで人類一人ひとりに代って、人類即神也の印を組み、宇宙神の光を下ろし続けることが大切であると示されています。

新しい習慣は人間神の子観から

この新しい神聖復活の習慣のもとになっている、人間神の子観・生き方と本心（神聖）の働きについて五井先生はどのように解説されているかみてみましょう。（五井先生の著書『神は沈黙していない』から引用）
人間神の子観と生き方「神様は全体であり、神の子人間は、全体の光明が、光線となって別れ別れの働きをしているので、人間同志は決して、

お互いに孤立したり自己主義になるべきものでない。そこで、神のみ心の中に、自己も他もすべての人類をも入れ切ってしまうと、日々生命新たに、光明燦然と生活してゆくことが絶対に必要なのだ。」という観方。
「この観方は、お互いに孤立したことにより生じた、不幸、悲しみ、恐怖、恨み、妬み、憎悪、不平、不満等々の想いや行為を、人間の神聖から出るものではなく、この世の中を、神の子人間が歩みつづけてゆく時に削りとられてゆく、闇の面の消えてゆく姿である、と全否定してゆく、断々固たる人間神の子、仏の子観なのである。」

「神聖の人間を肯定するのに、肉体の想いで肯定しようとするのは無理なのである。肉体の人間の想いにはやはり業生の世界の様相しかうつらない。そこで消えてゆく姿、という言葉を使って、一度、肉体人間そのものさえも、全否定しきっている。しかしそれを大げさに、肉体無し、などとは説かず、只何気ない言葉として消えてゆく姿を使い、あらゆる肉体世界の想念や出来事を、その消えてゆく姿という想いに乗せて、神の世界、神のみ心である大光明の中、完全性の中、そして各個人に内在する本心（神聖）の中に融合させてしまう習慣（生き方）である。」

本心（神聖）の働き「この神本来の本心の世界は、生き続ける生命である、即ち無死無生の心、空の底にある無限の心と等しき心で、愛深き心、

美しく清らかな心、真をつくす心、善事をなす心等々、すべて人間生活を高め、深める心のひびきの世界、即ち神聖の世界なのである。」

「本心の中には、悪いもの悪いことが、一切無い。完全圓滿であり、大智慧、大愛で満たされている。その中に一切の想念を統一してしまおう、そこから生まれてくる智慧能力によって開運もし、安心立命していく。肉体意識がいかなる不安恐怖の感情に襲われても、動揺もなく、ただ喜びと感謝に包まれ、必要に応じ、無限なる叡智など無限あるすべてを現わし、満たしていく。」と、人間神の子観を持ち、本心（神聖）に寄り添って生きていくことの大切さを強調されています。

新しい神聖復活の習慣を通じて得るもの

新しい神聖復活の習慣に於いて、私たちは、本心に寄り添っていくことにより、どのような事態になっても、神の愛を信じ、心を動じさせないなど、愛と平和を志向する生き方に変容していくことができます。では、この宇宙根源の光と私たちに内在する神聖と同調（一体化）を促すための習慣はどのようなものか。

結論から言えば、新しい神聖復活の習慣は（本心）神聖（の働き）により、

私たちが宇宙神の分身としてこの肉体界に降りてきたとき、私たちの光で崩れ、消えてゆく闇の姿を自分自身だと誤って認識したことにより失った自分の光（本心）の輝きを取り戻し、それによって、宇宙神のひびきを受け止めることができるようになり、平易に宇宙神のひびきと同調できる道が開ける。その状態で神聖復活の印を細めば、神自身によって、神の力（強力な光）がそのまま流されてくる。そして迷える多くの人々を救済する、強力な光を下ろすことができるようになると言われているのです。

神聖復活の印と表裏一体の関係にある、次の真の祈りの原理を理解できれば、この同調する有難みが納得できることでしょう。

真の祈りは、自分の肉体頭脳が祈るのではなく、宇宙神に向かって、直霊一分霊（本心）が「私はあなたと一つです」と宣言することです。なのであって、肉体を動かしている生命と、宇宙に充滿している生命が合体し、即ち宇宙神と直霊一分霊（本心）が結びつき、神自身により、神の力（強力な光）がそのまま流されてくる。言い換えれば、私たちが肉体頭脳で人類の平和をお願いしてできるのではなく、直霊一分霊（本心）が平和であると言いつつ、平和の祈りが宇宙神と一体となり、生命と生命が結びつき、地球を覆う迷いがその強力な光で消え去るのですね。

神聖復活の印のわらなる偉力を発揮する呼吸法

新しい神聖復活の習慣として考えられる、神聖復活の印のさらなる偉力を発揮する呼吸法について、過去昌美先生が解説されています。

2020年12月26日の動画による祈りの会で示された五井先生のメッセージにおいて、呼吸法によって「大宇宙、大自然に悠然と存在し、広がる宇宙の大生命そのものに、自らの呼吸を同調し、調和させていくと神聖復活の印はさらなる偉力を発揮する」と言われています。

そして大宇宙、大自然に悠然と存在し、広がる宇宙の大生命そのものに、自らの呼吸を同調し、調和させていくというこの意味について、次のように説明されています。

「人類は自らが生まれた国土を愛することにも、自らがその時々で身を置いていく国土を愛さなければならぬ。そのような義務と責任を負っている。なぜなら、人類一人一人の愛を、それぞれの地に生息する生きとし生けるものが必要としているからである。息が合う、ということ業があるが、愛は同調し、調和をもたらしてゆく。古来より受け継がれて

きた大自然、そしてそこに棲む生きとし生けるものの呼吸と、人類の呼吸が一つになってこそ、世の中は変わってゆくのである。

人類がこの地上で生きてゆくということは、ただただ自分達の思うままに自然を開発し、利用して問題解決を計ればよいということではない。生きるためには水、大地、太陽、自然、生物・・・すべてが必要である。そして、そのすべてが息をしているのである。人類だけが息をして生かされているのではなく、すべての生きとし生けるものが今、人類と同じように呼吸をしているのである。」

即ち、大宇宙、大自然に悠然と存在し、広がる宇宙の大生命とは、人類だけではなく、すべての生きとし生けるものの生命をさしておられ、自らの呼吸をそれらにいかにも同調、調和させていくかにより、神のみ心の愛のひびきが、どれだけ宇宙に溢れ出でるかかまってくる。神聖復活の印は、これらの意味を理解し、意識して細むことにより、この印の偉力はさらに発揮されると言及されているのです。

呼吸法による唱名

『呼吸法の唱名を最大限に活用する』(昌美先生著)において、宇宙

の大生命に同調、調和する意識を深めるのに極めて有効な方法について解説されています。

この呼吸法による唱名は、息を吸いながら心の中で、「我即神也」、「息を止めて」成就」、息を吐きながら心の中で、「人類即神也」と唱える呼吸方法です。やり方について、次のように解説されています。

「まず、赤ちゃんが母の子宮で成長している時、へその緒はお母さんのへそにつながっている。宇宙子はそのつながりを通して赤ちゃんの体内に流れ、私たちが成長して大人になった後も、私たちがへそを通して魂の親である宇宙神とつながっている。宇宙子は見えないへその緒を通して肉体に入っている事実を知ること。

次に鼻からゆっくりと息を吸い込むにつれて肺が広がり、その広がった肺の中に一杯に、神聖なるキラキラ輝くテイバイン・スパーク、宇宙子が満ちてゆく様子を想像しながら臍下丹田を意識し、へそと背中をひきつけるように腹部をぐんぐん引き締め、へこませてゆへ。

また、息を吸いきったら、「成就」の代わりに「すべては完璧、欠けたるものなし、大成就」と心の中で唱えながら、目の奥の、頭の後ろのほうに意識を集中させながら、鼻から少しずつ、息を少しずつ、息を細

く流れるように吐いてゆへ。少しずつ吐き出すためにはお腹を緩めず、へそと背中をさらに引きつけるイメージで、腹をへこませてゆき、意識を臍下丹田に降ろす。この際意識的に肛門をしっかりと閉じて多くの宇宙子を身体に溜め、逃さないようにする。

始めはエネルギーが、かーっと体内を巡り、体の中の宇宙のエネルギーが燃えてきて、体が熱くなるのを感じる。このようなイメージを持つだけでよい。そうすると、身体に溜った宇宙子のエネルギーが全身を駆け廻り、細胞の汚れや血液の滞りが解消するとともに、自然治癒力が湧き上がってきて、そして脳の働きも活性化する。

そして、目の奥の、後頭部の箇所から宇宙を見渡すことができ、私たちの身体の中で宇宙子が活性化すると、インスピレーションや直観力やビジョンなど、私たちのスピリチュアルな能力が開発される。自然と私たちの内なる神聖につながり、想念や肉体を変えてゆくことが出来る。ひいては、個人人類同時成道で人類にますます光が行き渡るようになる。」

「この呼吸法を正しく行うには、外から与えらるるものではなく、自分なりに練習することによりはじめて自分のものにすることが出来る。いかなる精神修養においても、生け花、武道、絵を画くことなど、い

れにおいても、決まっている「型」を教えられ、鍛錬することが求められる。その型は、私たちが学ぼうとすることの基本からできている。その基本型が根本にあって、私たちは、それぞれの創造力と実践をもって、努力次第で自分自身のものとして高めてゆける。

どんなことも、他の人が教えてくれることを聞くだけで、きちんと自分のものにしないうらば、他に依存したままである。それでは、私たちは神性を顕現することはできない」とこの呼吸法を自分のものにする努力の必要性を強調されています。

そして「この数年間で一万人の人たちが、この呼吸法による唱名を行っている。それによって他の人が覚えようとする際、より簡単にできるようになっているはず。それは共磁場ができているから。私たちが初めて呼吸法による唱名を行った時、それはかなりの挑戦であったが、この共磁場ができたことにより、以前よりも容易になっているはず」と励まされています。

また、宇宙の大生命に同調、調和してへると、自分の身の周りに対して、観方や感じ方が大きく変わってきます。

『美先生のお言葉にみる、己、己の目を通して神を見、また自らの

耳を通して神の声を聞くことができ、自らの肉体もすべて整っている」とが判るようになる。さらに、神とつながるチャクラが開かれているので、神のバイブレーションがあることが判るようになり、感覚が微妙になり、風景も輝いて美しく見えるようになり、また音も味も、妙なる美しいものが感じられる。そして、自分たちだけが素晴らしいのではなくて、すべての生きとし生けるものが全部つながっていることが実感できる。三次元世界にいながらにして、神界に生きられるようになる」と心境が向上することを解説されています。

さらに、日常の言葉の使い方や思いの在り方が、変わってきます。「何故なら、自分の言った通りにまたイメージした通りになることをはつきり実感できるまた、愛深い言葉やイメージは、自分を生かし、相手を生かすからである。相手が神のみ心から離れていても、決して傷つける言葉は発しない。相手が神のみ心の中に戻るようになり、忍耐と智慧により導いていくことが、自然な行為としてできる。それは自他一体の心があり、また相手のハートに直接語りかけることができるからだ」とこの方法の実践による効果について言及されています。

これも、宇宙神のひびきに同調する道を開く、新しい神聖復活の習慣であるといえます。